

豪ドルは商品市況や国外動向に注意

- ◆豪州からの経済指標は乏しく、豪ドルは商品市況や他国の動きに追随か
- ◆豪雇用統計の結果はまちまち、賃金上昇につながるかは依然不透明
- ◆SARB は金利据え置き、市場の関心はズマ大統領の辞任時期

予想レンジ

豪ドル円 85.80-90.00 円

南ア・ランド円 8.75-9.24 円

1月22日週の展望

豪ドルは豪州の雇用統計がまちまちな結果となったことで動きにくくなっている。12月の雇用統計前に統計局から発表された9-11月の求人件数は21万300件で、6-8月の20万4800件から増加し、1979年に統計を開始して以来の求人件数となった。しかし、求人件数が増えているにもかかわらず、18日に発表された失業率は5.5%と前月から0.1%ポイント悪化した。一方で、労働参加率は65.7%と2011年以来、ほぼ6年ぶりの高水準。就業者数も予想を大きく上回っており、まちまちな結果となった。豪準備銀行(RBA)が、雇用の回復が賃金上昇を導くというシナリオ通りにいくかどうかは依然不透明のままだ。

来週は豪州からは主だった経済指標の発表はなく、豪ドル市場は商品相場の動向、国外の政治や経済動向に連れることになりそうだ。特に25日に開かれる欧州中央銀行(ECB)理事会、ドラギECB総裁の会見でユーロがどのように動くかが、豪ドルにも影響を与えると思われる。経済指標では31日に発表される10-12月期の消費者物価指数までは注目される経済指標は少ない。

南ア・ランド(ZAR)円はレンジの中でもみ合いか。先週末のテレビインタビューで、ラマポーザ議長がズマ大統領の進退問題は今後時間をかけて対応するという考えを示した。市場では数週間以内の退陣を目指すとの憶測も出ているが、2019年まで任期があるズマ大統領が素直に退陣するかどうかはまったく分からない。過去にも大統領の不信任案を幾度も否決させてきていることや、いまだにズマ大統領の支持者がアフリカ民族会議(ANC)の中に多数いるため、まだまだもめる可能性が高く、退陣するまでは予断が許さないだろう。経済指標は24日に12月の消費者物価指数が発表されるが、ラマポーザ議長が大統領になるまでは経済指標では動きにくくなりそうだ。

1月15日の回顧

ユーロの早期テーパリングへの期待感や、独連立政権樹立の可能性が高まり、ドルが全体的に大きく売られたことで、豪ドルは買われた。豪ドル/ドルは昨年9月21日以来となる0.8023ドルまで豪ドル買い・ドル売りになった。対円でも豪ドルは強含んだ。

豪州の経済指標では、11月住宅ローン貸出が拡大し、市場予想の-0.2%を上回る+2.1%だったことで、豪ドルは買い支えられた。注目された12月雇用統計では、就業者数が市場予想の9000人を上回る3万4700人だったことで、豪ドルは一瞬買われたが、失業率が5.5%と市場予想や前回の5.4%よりも悪化したことで、上値は抑えられた。中国の10-12月期国内総生産(GDP)が市場予想の+6.7%を上回る+6.8%だったことが豪ドルの下支えになった。

ZARは対ドル、対円ともに上昇した。南アの11月小売売上高は前月比で+4.0%と、前回発表値の-0.1%を大幅に上回り、5年ぶりの伸びを記録した。南ア準備銀行(SARB)が政策金利を市場の予想通りに6.75%に据え置いたことで、対ドルでは2015年6月以来の水準まで上昇した。(了)